人 HITO

その人らしさを失わないよう
柔らかい、優しい表情を出す
これが大切ですね

髙橋　彦一さん
(㈳日本婚礼写真協会第５代会長)

髙橋さんは設立当初からの(社)日本婚礼写真協会の役員で、全国の営業プロ写真館の国庫補助金を付した活路の開拓などに積極的に取り組んだことなどが評価され、昨年、勲五等瑞寶章を受章されました。そして今年は去る５月14日東京赤坂御苑における天皇皇后両陛下ご主催の「春の園遊会」に全国で１千800名、県内では23名の中の一人としてご夫婦で招待されました。おめでとうございます

入間川で写真館を経営されている髙橋彦一さんは、もともと絵が好きで、肖像画などは写真かと間違うほどの腕前をお持ちです。そして、その絵心を生かした山岳写真が趣味でもあります。趣味について伺うと、「富士山の写真の大家、岡田紅陽先生を尊敬しているのですが、この先生は生涯自分の写真に満足せず、常に目標を持ち続けた先生です。私もそうなりたいと思います。例えば昨日撮った写真を今日見て満足するようですと、そこで技術の向上は止まってしまう。」とおっしゃいました。そして「富士山は整いすぎていて、絵はがきのようになってしまいますから、私はできるだけ動きが出るように、雲や光の表情を考えながら撮ります。」と教えてくださいました。

髙橋さんは、「お客さまの写真を撮るときに大切なのは、その人柄も知ることで、必ず世間話のような他愛のない会話をしてから撮影します。そして話しかけながらシャッターを切り、緊張しないように気を遣いますね。人を撮るとき、一番難しいのは大人のかたです。厳格なかた、緊張しすぎてしまうかたなどいろいろいらっしゃるが、どうにかしてそれを和らげて、いい表情を撮らないとね。」とお話ししてくださいました。このように髙橋さんが撮ったお写真は、どの被写体のかたもとても和やかな雰囲気で、見ていると温かい気持ちになり、思わず微笑んでしまうものばかりです。

そんな髙橋さん、もう25年間も、金婚を迎えた記念としてご夫婦の写真を無料で撮り続けていらっしゃいます。髙橋さんは、「自分が動けるうちはずっと続けるつもりです。これからも、社会のため、人のために、自分ができることをし続けていきたいですね。」と語ってくださいました。

これからも、宝物にしたくなるような、素晴らしい表情の写真を撮り続けてくださることでしょう。

お孫さんの謙くんと一緒ににっこり。赤ちゃんは、とてもいい笑顔が撮れる素晴らしい被写体です

私の趣味　写真

小山宗助さん
(入間川在住)

私はもともと、登山を趣味としていました。そして山に登りながらいつも思うことは、「この風景、この景色を残しておくことができたら。」ということでした。そうして始めたのが山岳写真です。そのうちに、小学生だった子どもの卒業アルバム用として撮影する機会があり、人物なども撮るようになりました。今では、日本報道写真連盟の一員として活動し、新聞社の投稿や広報の投稿などをしています。写真は一瞬の勝負で決まりますから、使用したいレンズに合わせて、カメラは常時2～3台持ち歩いています。また、場所によっては脚立なども持って、5～6㎞も歩くこともあります。今までに一番気に入った写真が撮れたと思ったのは、両神村で撮った山百合の写真ですね。私が写真を撮るのは、自分がきれいだと思った景色を、ほかの人にも見せてあげたいと思うからなのです。また、地域の写真を撮り歩いていると、そこから人と人とのふれあいも生まれます。そういった人情も大切にしています。夢は、全国の消えていきそうな伝統の職人さんを10人撮りためて、個展を開くことですね。今、6人。表情を大切に、これからも身近な写真を撮り続けていきたいですね。

狭山市の空き缶・空きびんは全てここに集まります
リサイクル品も多数展示し
ますます便利に使えそうですね

REPORTER'S EYE

【リポーター】
伊原　しのぶさん(新狭山)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

リサイクル品展示室や不用品登録制度も利用したい業務ですね

夏本番、ジュースやビールがおいしい季節です。さて、このジュースやビールの入っているびんや缶、ペットボトルはどんなふうに処理されるかご存じですか。今回は、これらの資源化を推進するリサイクルセンターをリポートしました。

お話を伺ったのは、山下所長さん。このセンターでは、資源ごみといわれる空き缶・空きびんや、古紙・古布、ダンボール、牛乳パック、有害ごみといわれる使用済乾電池などを扱っています。また、ペットボトルについても、今年の９月から一部地域で試行収集を行う予定になっているとのことです。

空き缶・空きびん、廃乾電池の収集は、市内を10地区に分け、各地区月２回、隔週の曜日指定で収集しています。収集方法は、私たちの家近くにある集積所に、収集日の前日、かごが配られます。そして当日の８時から収集が始まります。１日に集まるビン・カンの重量は夏場になると約15～16ｔになるそうです。このセンターでの機械の１日の処理能力が約18ｔですから、ほぼ限界ということになりますね。収集してきたびんは回収して洗浄し、もう一度使用する「リターナブルびん(生きびん)」と、カレットという無色、茶色、緑色、青色、黒色のガラスくずにし再利用を図る「ワンウェイビン」という２種類に分けます。また、缶は、磁力選別でスチール缶を取り除き、アルミ缶は風力選別して、金属プレス機にかけられ、圧縮された直方体になります。

この業務を見て驚いたのは、手作業がとても多いことで、「ほとんど機械で処理しているんだろうな。」と思っていましたので、その作業がとても大変なものだということを知り、改めてごみの出し方を考えさせられました。そして少しでも作業が楽になるよう、これからはもっと注意してごみを出さなければいけないとも思いました。７月から、市内３か所のごみ処理施設の個人見学会が開始されました。皆さんもぜひ、実際に見学してごみの処理方法を知り、私たち市民の出し方でどれくらい負担が軽減されるか、確認してみてください。

リサイクルセンター
新狭山1－11－32、☎53－4704
▶リサイクル品展示室☎53－4400
▶不用品登録制度コーナー☎54－4953

リサイクルセンターでは、このほかにも、不用品登録制度やリサイクル品の展示室など、生活に密着したリサイクルを進めています。登録された不用品は毎月10日号の広報に掲載されますので、皆さんも活用してみてはいかがですか。

便利になった現代の生活と比例して増えていくごみ。今回のリポートで、私たち消費者が少しでも減らす努力をしていかなければいけないということを、改めて考えました。皆さんはどうお考えになりますか。

リサイクル品の展示室で。４月から、土曜日も開所し、毎日約140人の利用があるそうです。手続きも簡単で、市内在住・在勤のかたならどなたでも利用できます